

新聞 及善蒲鉾店

10月15日(土)

【発行】株式会社 及善商店
【編集】及川善弥・沼倉忠彦

炙り笹ネツト販売開始

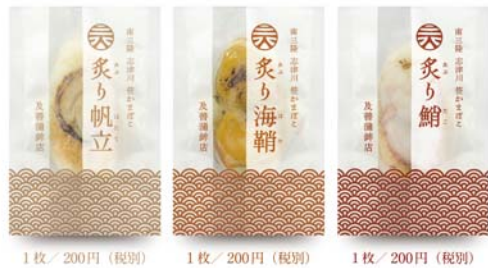
「好評いただいております。新商品の「炙り笹」。

南三陸さん商店街と、登米市の工場直売店での販売でしたが、本日10月15日よりインターネットでの販売を開始しました。インターネットで「おいぜんかまぼこ」と検索していただければ当



炙り笹詰合せ15枚入 3, 4 5 6 円

創業明治十三年 蒲鉾屋 及善が創りだした 笹かまの新しい味わい



南三陸志津川の海の幸を、捌いてそのまま炙りました。及善だからできる贅沢な一手間。まずは、鯛、海鞘、帆立からご賞味ください。

おいぜんかまぼこ 検索



南三陸新工場地鎮祭挙行

9月28日に、弊社新工場建設の地鎮祭を挙行政致しました。東日本大震災から5年と6か月。ようやく故郷南三陸町に本社工場の運びとなりました。場所は南三陸町入谷桜沢

南三陸新工場地鎮祭挙行

地区、国道398号線沿いより右側です。竣工は来年の五月の予定です。これからも更に美味しい蒲鉾を創りお届けして参ります。宜しくお願い申し上げます。



催事報告

◎「ワッショイ上野 東北マルシェ」
9月18日～9月19日
東北各地の名産勢ぞろい宮城からは、当店の笹かまぼこの他、しそ巻、三陸のわかめや珍味が並びました。



◎ルミネ川越店
9月27日～10月3日約半年ぶりの川越での販売。
◎秋の味覚祭り2016 in やくらい
秋晴れのもと、地元の方々や紅葉を楽しむ観光客で賑わいました。



◎まるごと西川三山祭り
10月9日
山形県西川町の西川三山祭りに出店しました。山形風いも煮、玉こんにゃく美味しかったです。



催事予定

◆子育て応援団すこやか2016
10月15日～16日
利府町セキスイハイムスーパーアリーナ
10時～16時



◆登米市産業フェスティバル
10月23日(日) 登米市 迫町体育館・迫中江中央公園 9時30分～15時



◆南三陸町産業フェア
10月30日(日)
南三陸町ベイサイドアリーナ 特設会場
9時～14時
◆ルミネ川越店催事
11月1日～11月5日
JR川越駅改札前
10時～20時 最終日17時

今月の福興市

●今月の福興市は、南三陸町産業フェアのイベントとして開催されます。

今月のお魚 秋刀魚(ぎんま)



秋刀魚は形も色も刀に似おり、秋にとれることが由来とされる。秋のサンマは脂肪分が多く美味であり、特に塩焼きは「秋の味覚」の代表とも呼ばれる。古く江戸時代には、塩蔵か干ものとして食卓をにぎわしていた▼一年を通してサンマを見かけない日はないほどで、刺身、干物、塩焼

工場見学とインターンシップ

南三陸町立入谷小学校 3年生の皆さんが工場見学に来社。出来立ての笹かまぼこには歓声が沸きました。

大正大学の研修学生 3名、女子2名が工場研修に。細工蒲鉾作りの体験では、個性が光る出来栄となりました。

作業体験中の大正大学生

宮城県登米市 長沼ダム

宮城県登米市にあり旧北上川の支流迫川の自然のダム湖である。この付近には、長沼をはじめ伊豆沼や内沼といった湖沼があり、東北地方最大のハクチョウ飛来地となっている。夏には蓮の花が咲き誇り、遊覧船に乗って運を楽しむことができる▼舟といえば最近世間を賑わしているのが、2020年東京オリンピックのポルト・カヌー会場。その候補として急ぎよ浮上した長沼は、宮城県灌漑場として整備されており、1999年にはシドニーオリンピックの予選を兼ねたアジアポルト大会も開催されている。4年後の長沼はどうなるか？



長沼の蓮 (登米市観光協会HPより)

ひとこと

リオ五輪も一息つき、いよいよ4年後は東京五輪と選手や関係者はすでに様々な準備に取り掛かろうとしている時期だろうか。そんな中、突然のニュースが飛び込んできた。五輪ポルト会場が登米市の長沼が候補になったという。都心部での施設設備に膨大な費用がかかるならばと、都知事が提案したものだ。と思われが、私は朗報だと思つた▼一方で、被災地工事が遅延しているのに、長沼の五輪会場に向けた工事を行うということに、複雑な心境の方も多いるはずだ▼こうして物事が大きく動くとき、そのかじ取りを国や県がしていくのは容易ではないだろう▼南三陸町内では、今後のまちづくりをより良くしようとする様々な組合や団体が町役場と連携して日々検討会議を行っている。その中で、南三陸の全町民、全企業者が町のこれからの指針を謳う条例を作ろうとする動きがある。わかりやすく言えば南三陸町のこれからの生きざま、何があっても負けない太い根っこづくりである▼今回の長沼でのポルト五輪を成功させるため考えた場合、施設設備を新しくして人を呼ぼうとするだけでは、田舎のその後が危ぶまれる▼そうならないためには、登米市だけではなく、近隣の町もはつきりとした強さを改めて理解しておく必要がある▼田舎の魅力発信できるチャンスと思えるようにしていきたい。

及川 善弥